

河小嶋ハ八ノ字、下總ノ境ハトモヘ、是ハ千葉ノゾウトカヤ、サ、リンドウハ石川、モツカウハ熊谷、車ハ伊勢ノ外宮ノ宮方柳原ガ紋也、鳥居ノモンハ八幡ノ神職宮崎ノ法印ガ紋也、七星ハ望月、梶ノ葉ハ諏訪ノホウリ、三タウシハ皆岐ノ八郎宮原モ是ヲ打矢ハヅグルマハ服部、松ニ月ハ天野藤内帆カケ舟ハ熱田大宮司、山城ガスナカシ、水ニカリハ小串五郎、粟飯原ガカヤクノモン、ヒシツルハ南部ガモン、庵ノウチノ二頭ノマヒ鶴ハ天智天皇ノ後胤葛山備中守、御所モ是ヲ打扇ニ月ノ書タルハ常陸ノ佐竹ガモン也、地黒菱ハ板垣、松皮ニ釘貫ハ阿波ノ三好ガモン也、一宮ハ日雲也、左巴ハ下枝ノ紋、マヒ違鷹ハ櫛置ノモン、根引松ハ常葉ノモン、下條ハ梶ノ葉、折野ハ木瓜、坂西ハ丸ノウチニマツカハノモン也、山中ハ日扇、溝口ハ井桁、但三葉ガシハヲ打事モ有、高島ハ違カブラ矢、松尾ハ丸ノ中ニマン字、二木ハチギリヲ打、松岡ハ瓜ノモン也、赤澤ハ松皮ニ十文字、遠州ノ小笠原、松皮菱ニ、水落九曜星ハ標葉也、山邊西牧ハ梶ノ葉ヲ打、犬耳平瀬嶋ハ一黨、後聽ハマヒチガヒノ鶴ヲウツ、其外幕ノ數々、當世ハヤル國々ノ作り名字ノ幕ヅクシ、ウテホウタヒニ立ナラズ、

〔豆相記〕綱成者、相州甘繩城守、又字上總介、地黃四方旗、書八幡二字、以爲紋、無暴虎、憑河之悔、臨事而懼、好謀而成、故攻而無不破、戰而無不勝、世人呼號黃八幡矣、

〔勢州四家記〕一伊勢の國司は村上の源氏、北島なり、略○中幕之紋は、割菱也、

一工藤の一家とは、工藤左衛門尉藤原祐經の後胤也、略○中幕紋は、三引兩なり、

一關の一黨とは、六波羅太政大臣平清盛公の後胤也、略○中幕紋は、上羽の蝶也、

〔北條五代記〕小田原北條家旗馬、略の事

見しは昔、北條氏直公時代、關八州の武士の旗家々に傳ふる紋をあらはし、さし物は、其身一代にかはると見えたり、おもひくゝのさし物、品様々の紋あり、去程に、我指物に似たる紋あれば、他の